

に國民主義の變體せざる所以、及び帝國主義の實質を論じ、七十年以降の外交大勢を論せんとせしも、紙數の制限あるが故に、今回は此處に止めて他日更に諸兄に見うる事あるべし。(完)

雜
錄

閑窓雜記 二

教授 山 田 準

余は嚮に一部二年の諸子に普通熟語の書取を課せり。今誤謬の種類を左に掲げて、一般諸子の注意を望むと云ふ。

一、字畫偏傍等の誤りにえて、活字なきものは之を省く。

一、正字を括弧内に置き、誤字を其下に附す。

《寇賊》 寇。抗。

《賤別》 賤。賤。踐。殘。淺。饌。

《盲目》 盲。育。

《掣肘》 制。征。

《俳諧》 俳。俳。諧。俳。諧。階。

〔犧牲〕 性。蟻。義。儀。姓。

〔危險〕 劍。臉。

〔皮相〕 層。想。

〔偏頗〕 波。破。顛。傾。編。跋。談。徧。

〔境遇〕 况。界。偶。

〔思想〕 志。

〔理窟〕 屈。

〔諳記〕 闇。暗紀。

〔侮辱〕 蕪。悔。敏。

〔積郁〕 復。複。腹。育。

〔蹂躪〕 縱。淪。闌。

〔曲肱〕 股。

〔干涉〕 關。扞。肝。

〔脆軟〕 詭。跪。

〔劇烈〕 激。裂。

〔膨脹〕 張。澎。膀。脹。彭。脹。

〔抽籤〕 撰。截。線。肘。箋。籌。

〔疎漏〕

粗！。 ！陋

〔刮目〕

活！。 ！括！。 ！濶！

〔牽掣〕

！制。 ！勢。 ！索制。 ！牽制。

〔賡渾〕

！。 ！稅！。 ！奢！。 ！贊！。 ！買！。 ！剩！

〔虐待〕

！對。 ！逆！。 ！侍。 ！虛！

〔模型〕

！形。 ！摸！

〔影響〕

！况

〔活潑〕

！發。 ！恬！

〔煩悶〕

！悶。 ！繁！。 ！憫

〔摸倣〕

！法。 ！効。 ！仿。 ！倣

〔到底〕

！當！。 ！倒！。 ！低

〔慚愧〕

！斬！。 ！忌。 ！懺！。 ！殘！

〔癩病〕

！懶！

〔半宵〕

！霄。 ！屑

〔見解〕

！會。 ！界

〔分析〕

！析。 ！折。 ！剖

〔輕躁〕

！操。 ！燥。 ！輕燥。 ！噪。 ！匆。 ！燥。 ！藻

師傳

傳。博。

明晰

拆。浙。折。盼。

天然

笠

白香

香。香。

畢竟

必。意。翠。

淘汰

淘汰。馱。打。

障礙

害。硝。

枚舉

枚。拔。邁。每。

哨兵

宵。硝。消。

貫徹

徹。轍。

搏擊

搏。劇。縛。駁。

開拓

拓。挖。

大抵

底。低。抵。

爪牙

瓜。芽。

待遇

對偶。隅。侍。

穩當

隱。溫。等。

損耗

毛。喪。毫。亡。

〔毆打〕

棍。感。

〔懶惰〕

亂。墮。賴。

〔迂闊〕

浮活。宇括。于。

〔旱魃〕

潑。稜。魁。跋。干。

〔撤去〕

撤。撤。

〔矛盾〕

鉞。頓。牢。循。予。

〔匍匐〕

匍。匐。匍。匐。

〔帳簿〕

帳簿。

〔孤々〕

孤。孤。孤。

〔根柢〕

底。蒂。抵。

〔選擇〕

擇。擇。

〔老朽〕

窮。朽。

〔興廢〕

敗。癡。

〔潛然〕

潛。慘。滲。

〔公卿〕

鄉。皇鄉。

〔辮髮〕

辮。辮。

〔寂寞〕

莫。漠。

（剩餘） 乘！。冗！。劉！

（遲鈍） 痴！

（癩癩） 風顛。！轉。！癩

（更迭） 交迭。！徹

（汲々） 吸！。級！

（墮落） 惰！。隋！

（菅原） 管！

（徽章） 紀！。記！。微！

（敷衍） 布延。布演

（刺激） ！擊。！戟

（媒妁） ！酌。媒勺

（懺悔） ！讒。！慚。！織！

（記憶） ！臆。紀！

（觀念） 感！

（洩季） 曉！。堯季

（變幻） ！幼。！現。！顯

（擊柝） ！拆。！柘

〔秩序〕 映 1

〔撒水〕 徹 1。撒 1

右書取は、二字を一語とし、百五十語を選びて五十語づつ三組に課し、一語を一點とし、五十點を滿點とし、各組を平均せるに、一組は一人平均得點十九點奇零九を得、一組は十九點奇零七を得、一組は十八點奇零七を得たり。

新 兵

(上)

さむしる

熊本驛の時計は、今し方午前九時を報つた。四番の下り列車が来るには、もう間がないので、今迄寂しかつた驛内も、そろ／＼騒がしくなつて來た。威勢よくやつて來た四五輛の車が、驛の入口にぱつたり止ると、茶の中折の脊廣に寄添つて、夜會結の吾妻コートが、すつと一二等の待合室にはいつた。續いて黒の三紋の鬚多き男と、五高の制服を着けた年少の學生とが、一人は金縁の眼鏡越に、一人は鐵縁の眼鏡越に、三等の待合室を睥睨しながら、鷹揚にはいつた。草鞋かけて、息も切れ／＼に走り着いて、あゝまた早かつたと、やつと胸を撫下す田舎老爺もあれば、小奇麗な町家の中年増が、朋輩らしい同年輩の髪のもゝれたのを見つけて、まあよかつた、ど何だか嬉しさうな様